

駒澤大学 2026 年度 国際型選抜 事前課題(日本語)

対象学部・学科

仏教学部・国文学科

歴史学科(日本史学・外国史学・考古学専攻)

社会学科(社会学・社会福祉学専攻)・心理学科

経営学部(経営・市場戦略学科)・医療健康科学部

＊ある国語の授業の際に、教師が生徒に以下の【資料】を配布した。それから数日後、生徒の A と B は、昼休みの教室でこの【資料】の内容をめくり会話をしている。【資料】および A と B の会話を讀んだうえで、①～③の課題に取り組みなさい。

【資料】石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める—社会言語学入門』光文社、pp. 105～106 より

話し手は、聞き手との親しさを示すために、聞き手の使っている言葉に同調(speech accommodation)させ、そこに自分の言葉を収束(speech convergence)させていく傾向があります。こうした傾向に従って人間は言語行動をおこなっていると考えるのが、アコモデーション理論(accommodation theory)です(Giles et al.1991)。

私の祖父母はすでに亡くなっていますが、父方も母方も関西在住で、関西弁を話していました。そこで、私は帰省して祖父母と話すとき、かならず関西弁を使っていた記憶があります。今にして思えば、そのことをとおして、祖父母に好意を示そうとしていたわけです。聞き手が使っているバリエーションと同じバリエーションを選ぶというのは、親しさを示す有効な手段です。

※Giles,H., Coupland, N. and Coupland, J. (eds.), (1991).

The Contexts of Accommodation. New York:Cambridge University Press.

A：このあいだの授業で先生が配布してくれた資料の内容をもっと深く理解したかったから、出典となっている『日本語は「空気」が決める』という本を図書館で借りてきて読んでみたんだ。

B：ほんとうに A は真面目だな。せっかくだから、その本の内容について教えてよ。

A：著者の石黒圭さんは社会言語学を専門とする研究者なんだけど、言葉選びには文法のような「正しさ」だけでなく「ふさわしさ」という基準もあるということをこの本では主張しているんだ。話し手の世代や性別、話し手と聞き手の関係、その場の状況などによって言葉の「ふさわしさ」は変わってくるんだって。

B：ちょっと難しいな。もう少し詳しく説明して。

A：言葉にはさまざまな種類があるんだけど、その言葉の種類は同じ言葉を共有するグループによって異なるというのが社会言語学の大切な前提みたい。私たちはある人に出会ったとき、その人がどのようなグループに所属しているかを外見や状況などから判断し、その人のグループの言葉を使ってコミュニケーションをすることがあるみたいなんだ。反対に、使っている言葉の種類から、その人がどのようなグループに所属しているかを想像することもあるんだって。

駒澤大学 2026 年度 国際型選抜 事前課題(日本語)

対象学部・学科

仏教学部・国文学科

歴史学科(日本史学・外国史学・考古学専攻)

社会学科(社会学・社会福祉学専攻)・心理学科

経営学部(経営・市場戦略学科)・医療健康科学部

B：著者の石黒さんは、祖父母が関西に住んでいるから、そのグループの言葉である関西弁を使って話したということだね。

A：そういうこと。所属する人のアイデンティティによって、たとえば「関西人」といったようなグループが形成され、そのなかでは共通した特徴を持つ言葉が話されるんだ。社会言語学ではこうしたグループのことを言語共同体と言うそうだよ。石黒さんが祖父母の前で関西弁を使っていたのも、この言語共同体に加わることによって祖父母に対する好意をアピールしたんだね。思い返せば、自分も広島に旅行したとき、お好み焼き屋の店員さんに親密さを表わそうと思って、「ぶちうまかった」と言ったことがあるよ。

B：自分は旅行にあまり行かないから、そういう状況ってなかなか想像できないな。

A：いや、普段の生活にも似たような状況はたくさんあるよ。たとえば、ベテランの先生と話すときに、クラスの友だちと話す言葉だと会話がうまくいかないと思って使わないようにするでしょ？

B：たしかに「エモい」という言葉がクラスで流行っているけど、先生には分からないから使わないかな。社会言語学っておもしろい学問だね。先生が配布してくれた資料の内容を少し理解できた気がするよ。

【課題①】

人との関係性のなかで、あなた自身が言葉の使い方を変化させたことのある場面を一つ紹介しなさい。
(字数指定なし。)

【課題②】

課題①であげた場面では具体的にどのように言葉の使い方を変化させたのか、その理由もふまえて説明しなさい。(本文は 400 字以内、末尾に字数を明記すること。)

【課題③】

日本社会の特定のグループのなかで使われている言葉(特定の一語)を一つ取り上げて調査し、その言葉がグループの内部、もしくはグループの外部にどのような影響をもたらしているか説明しなさい。調査対象は任意です。書籍や新聞だけでなく、インターネット上の情報などを調査対象とすることも可とします。意見を記すにあたっては、別紙の「資料」をもとに、参考資料の情報を明記してください。(意見本文は 1000 字以内、末尾に字数を明記すること。参考資料の情報は字数指定なし。)

駒澤大学 2026 年度 国際型選抜 事前課題(日本語)

対象学部・学科

仏教学部・国文学科

歴史学科(日本史学・外国史学・考古学専攻)

社会学科(社会学・社会福祉学専攻)・心理学科

経営学部(経営・市場戦略学科)・医療健康科学部

[資料] 参考資料の情報の書き方の例

《書籍》

著者名(出版年)『書名』出版社名

例：駒澤緑(2025)『都市型公園の未来』アジア書房

《雑誌記事・論文》

著者名(出版年)「記事・論文名」『雑誌名』巻号、掲載ページ

例：駒澤緑(2025)「借景と現代生活」『庭園史研究』第12巻4号、pp.25～50

《新聞記事》

「記事名」『新聞名』掲載年月日

例：「伝統を受け継ぐ！ その本音とは？」『若原新聞』2025年4月25日

《Web サイト》

「ページタイトル」『Web サイト名』(URL) 閲覧日

例：「樹木医の仕事」『WAKAHARA TREE オフィシャルサイト』

(<https://www.komazawa-u.wakahara.tree/>) 閲覧日 2025年5月20日

《オンラインデータベース》

「記事名」『データベース名』(Web サイト名) (URL) 閲覧日

例：「戦後日本における植林数 [1946 年]」『若原森林データベース』(WAKAHARA TREE

オンライン) (<https://www.komazawa-u.wakahara.tree.online/>)

閲覧日 2025年5月20日

駒澤大学 2026 年度 国際型選抜
日本語
事前課題 提出用表紙

【Word 作成用】

太枠内を手書きで記入してください。

フリガナ	
氏 名	
総ページ数 ※表紙を除く	ページ
学部・学科 ※○で囲む	・仏教学部 ・国文学科 ・歴史学科(日本史学・外国史学・考古学専攻) ・社会学科(社会学・社会福祉学専攻) ・心理学科 ・経営学部(経営・市場戦略学科) ・医療健康科学部

〔解答上の注意事項〕

※提出前に以下の事項を確認し、チェックボックス□にチェック✓を記入してください。

- ☐ 作成した課題を A4 サイズ（縦）片面印刷で出力する。
- ☐ 形式は Word 初期設定値の 40 字×36 行で横書き設定とする。
- ☐ 表紙（この用紙）中央の太枠内に、氏名、課題の総ページ数（表紙を除く）を記入する。
- ☐ 表紙と作成した事前課題を束ね、左上角 1 か所をホチキスで綴じる。（クリップ不可）

大学記入欄